

「全鍍連」 2025年4月号 巻頭言

全鍍連環境委員長 辻 克之 (株)太洋工作所 代表取締役社長)

「大変化の到来か？」



新春の候、全鍍連の皆様におかれましては益々のご健勝の事とお慶び申し上げます。

全鍍連・環境委員会で委員長を仰せつかっております大阪府鍍金工業組合の辻でございます。皆様には環境委員会からの調査やアンケート等にご協力頂き誠に有難うございます。

この4月号が出る頃に、大阪において“いのち輝く未来社会のデザイン”をテーマとした大阪万博(EXPO 2025)が開催されます。コロナ後の資材・労働力の不足や高騰により開催が間に合うのか心配されましたが、なんとか無事に開催されそうです。全鍍連の皆様には、ぜひ大阪まで足を運んで頂き、大阪万博を盛り上げて頂けたらと思います。

話は変わりますが、昨年2024年は選挙イヤーと呼ばれ60カ国以上、世界人口の半分近くが選挙での投票を行ったようです。その結果が2025年に実行されます。一番の関心はアメリカ大統領にトランプ氏が再就任する事かと思います。就任前から既に始まっていますが4月には色々なトランプ砲が発せられ、各国政府や企業が対応に迫られる事かと思います。特に関税問題は、私たち鍍金業界にも大きなインパクトを与えられそうです。

それ以上に気掛かりは日本の基幹産業である自動車業界の変調です。皆様もご存知の様にリーマンショック後、日本の電機業界がデジタル化・ソフト化の流れに追従できず、特に黒物と呼ばれるAV機器は大きく縮小を余儀なくされました。大阪は家電の街でした。テレビやビデオの工場が今や物流センターやアウトレットモールに代わってしまいました。自動車は家電の様に単純ではないと思いますが、電動化・ソフト化の流れにAIも加わり大きく変化しつつあります。特にコロナ後の中国の進展は目を見張る勢いです。電機業界で起こった再編が自動車業界でも再現しつつあります。

少し暗い話ではありますが、弊社でもリーマンショックの5年後に電機業界向けの仕事が急減しました。コロナが2020年から3年間猛威を振ったことからすると今年から3年間は大きな変化が来るのかなと思っています。弊社はリーマン後に幸いにも海外のスマホ向け部品へのめっきや自動車のインテリア向け樹脂めっき(最近は落ち目ですが)で一息つくことができました。従来のめっきにプラスアルファ工夫することで仕事を頂けました。これからの大きな変化には、手間を惜しまず工夫と改善を重ねることが大事なことを考えています。今流行りのAIもソフトの重要性は言うまでもありませんが、半導体を作るにもデータセンターを作るにもめっき技術がなければ成り立ちません。“捨てる神あれば拾う神あり”の諺がある様に、私たちも努力して“拾ってくれる神様”を見つけて行きましょう。

最後に今年も環境委員会の事業である優良環境事業所認定制度が行われます。昨年は23社を認定させて頂きました。各組合員各社の環境レベル向上・環境整備の見直しに有効かと思います。皆様の本事業のご参画をお願い、巻頭言の終わりの言葉とさせていただきます。